

## 特集：現物を残す一紙資料を中心に

# 徳島県における古文書補修ボランティアの活動

金原 祐樹

### はじめに

—新型コロナウイルス感染症禍でのボランティア活動—

ボランティア活動は、人が行うものです。そのため、このコロナ禍で安全を守り、安心して活動を行っていただくためには、それなりの対応が必要となりました。実際に、徳島県立文書館では令和元年3月から6月前半までの約4ヶ月間は活動を休止せざるを得なくなり、狭い当館の講座室での活動を継続していただくために、①手指消毒の徹底、②マスクの着用、③体温の管理、④換気と空間除菌脱臭機の利用を行った上で、15人來られていた参加者を午前中と午後に分けて受け入れることとしました。これによって、参加者が同時に10人を超えることはなくなり、長時間の密集状態を避けられるようになりました。

しかし、ここまで対策を行っても感染症を恐れて不参加とされる方もありました。これはご家族を含めた各個人の判断ですので、当然尊重されるべきことです。また、感染症の心配が薄らいだときに、いつでも帰ってこられるような雰囲気を作ることが大事であると考えています。

さらに、古文書補修ボランティア活動の出発点となっている古文書保存講座をこの2年間開催できていないという大きな問題もあります。古文書補修の講座は技術伝習の面があり、どうしても人と人との密着が避けられません。また講師を関東からお呼びしていることもあり、開催が難しかったのです。この講座は、単に古文書補修作業への入り口というだけでなく、参加者の技術評価や学び直し、疑問点解消の場でもあったため、開催できないことはモチベーションの維持にもつながる問題です。何とか今年度は開催できるよう調整したいと考えています。

このように、徳島県における古文書補修のボランティア活動は、コロナ禍によって大きな問題を

はらみながらも、しぶとく活動を続けています。こうした活動がどのように始まり、どのように行っているのかを説明していきたいと思います。

### 徳島県立文書館とボランティア活動の原点

文書館等の歴史資料保存利用機関における本来の役割は、①歴史資料の確実な保存、②歴史資料の活用を広げることの2つにあると考えています。そのように考えると、人々にやりがいを持って続けていただけるボランティアによる仕事との相性は良いのではないかと思います。歴史資料保存利用機関の仕事は、資料整理や補修などじっくりした仕事が多いものです。また、その成果がはっきり出て、後々見返すことができる仕事でもあります。

徳島県立文書館では、平成20（2008）年から古文書補修ボランティアを開始しています。ボランティア活動は、基本的に強制ではなく余暇を利用して、やりがいがあると思える仕事を行う方が長続きして実際の成果に繋がります。これが、11年間当館において「古文書補修ボランティア」を続けてきた実感です。

さて、当館は徳島市の南西部八万町に徳島県文化の森総合公園という6つの文化施設が集まった公園の中にあり、他の文化施設によるボランティア活動を実際に見ていました。徳島県立図書館では、古くから本の点字訳や、音声変換がボランティアの手で行われてきていました。地道な作業によって資料の活用を広げる活動です。また徳島県立博物館や徳島県立近代美術館では、教育普及行事などのイベントや、地域の調査活動などでボランティア組織が作られ、近年ではさらに誰もが博物館・美術館を楽しめるユニバーサルミュージアムの試みへと進化しようとしています。このように近年の県の文化行政においても、県民との協働は重要なテーマになってきています。